



## 新年のご挨拶



院長 有山 重美

新年あけましておめでとうございます。

皆様のおかげで今年も無事に新年を迎えることができました。心より厚く御礼申し上げます。昨年は介護療養病床を介護医療院に転換し病院の中ではありますが少しでも家庭的な環境に近づけるように努力をしてきました。

今までは主として中高年の患者さんを対象とした医療であり、救命、延命、社会復帰を前提とした病院完結型の医療でした。しかし過疎高齢化が進む時代の医療は、病気と共存しながら住み慣れた地域や自宅での生活のための医療であり地域で支える地域完結型医療に変化しなければなりません。

当院はもともと老人医療を中心とした慢性期医療を実践してきました。現在、高齢者や認知症患者の専門的医療・療養に特に力を入れています。病気や障害を持っている患者さんやそのご家族が地域で生活できるように連携を図り今後も地域社会に貢献する病院であり続けたいと強く願っています。

皆様のご期待に沿えるように職員一同、努力してまいります。



## ～地域と連携できる 人材育成～



看護部長 西島 陽子

明けましておめでとうございます。

宇部リハビリテーション病院で無事に2回目の新年を迎えることができました。皆様のおかげと心より感謝しております。

昨年は医療・介護同時改定で、医療と在宅の連携が提示されました。当院では、介護療養病床の再編後、9月に介護医療院への転換を行いました。介護医療院は在宅としての施設で、『患者様』から『入所者様』と呼び方も変わりました。しかし、現場では医療的処置が必要な方が多く在宅での生活の場の提供に苦慮しています。今後は、年間行事の催しなど地域の方に広報し、地域との連携に力を入れ、生活の場を目指していきたいと思っております。

看護部は、教育体制の強化と看護の質の向上を図るため「教育担当者」を配置しました。人口動態の変化に応じて、医療・介護にも変化が起きますが、職員が働きやすく、患者さんへより充実したケアの提供ができることを求められると考えます。その変化に遅れることなく、患者さんへの看護に力を発揮していける看護部の育成に力を注ぎたいと思っております。

今年は、「亥年」です。勇気をもって、我慢強く、最後まで貫くことを職員

## 慢性期病院における冬季の取り組み

感染管理認定看護師  
河内 永法

昨年はインフルエンザA型・B型の同時流行や、沖縄県から始まった麻疹（はしか）の流行など、病院内の感染対策以上に市中での感染対策を考えさせられた年でもありました。

今季は暖冬とはいえ寒暖の差が厳しくインフルエンザ、ノロウイルスの流行しやすい時期となりました。当院では、特に冬季は厳重な感染対策が必要です。

入院患者の多くが抵抗力の弱い高齢者であることや、年末年始に多くの面会者があり、集団感染を引き起こす感染症が、外部から持ち込まれる可能性があるからです。市中での感染症の動向を監視しながら、院内での感染対策を実践していかなければなりません。今回、病院全体の感染対策活動を実務的に行っている、ICTという組織について紹介したいと思います。

ICT（感染制御チーム）とはインфекションコントロールチーム（Infection Control Team）の略称で、メンバーは医師、薬剤師、検査技師、看護師から構成されています。

### ICTの主な活動

- (1) 週1回の院内ラウンド
- (2) アウトブレイクの防止と発生時の早期対応
- (3) 現場への介入（教育・指導 必要物品の確認）
- (4) 感染対策マニュアルの作成・改訂

今後もさまざまな感染症から患者・家族、職員の安全を守っていくため、ICTでの活動をはじめ、多岐にわたる感染管理業務に励んでいきたいと思っております。感染対策に関して困っていることなどがあれば気軽に連絡してください。（メールアドレス：kangobukouchi@yahoo.co.jp）



ICTラウンドの様子

## お知らせ

当院は平成30年9月1日付で、既存の「介護療養型医療施設」を転換し、新たに「宇部リハビリテーション病院介護医療院」を開設しました。

\*「介護医療院」とは、長期的な医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者を対象とし、「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と「生活施設」としての機能とを兼ね備えた施設です。

